

## 行政事業レビュー公開プロセス(6月6日)

### (事業名)医療費情報総合管理分析システムに要する経費

#### 評価結果

#### 事業内容の一部改善

廃止	0	人
事業全体の抜本的改善	0	人
事業内容の一部改善	6	人
現状通り	0	人

#### <とりまとめコメント>

- ・ 保険者からのデータ収集やエラーチェックに時間を要していることが、現在の公表の遅れの主たる原因であることから、公表の早期化を実現するため、電子媒体等を活用した一層の効率化・迅速化の観点からの業務フロー全般の見直しを行い、改善計画を策定すべきである。
- ・ また、保険者からの報告について、現在、紙による報告が一部認められているが、今後の課題として電子媒体やオンラインによる報告を義務化するなど、制度的な見直しなども検討すべきである。
- ・ 今後予定されているシステム改修については、他のシステムとの連携等を含め、中期的なシステム構築計画を策定するとともに、個別のシステム改修の際には、集計業務の一層の効率化を図るべきである。
- ・ さらに、調査結果の公表についても、定型的なものだけでなく、例えばトピック別の公表なども工夫するとともに、そのバックデータについても閲覧しやすくするなど、公表の仕方の見直しを行うべきである。
- ・ なお、予算規模については、今後のシステム構築計画にも留意しつつ、執行率等を踏まえた適正化を図るとともに、成果目標についても、適切な見直しを行うべきである。

#### <具体的なコメント>

##### ○事業の課題や問題点

- ・ 統計データの早期公表に向けた情報取得体制が、システムおよびデータ取得双方において非効率な状況にある。
- ・ データベースは重要だが、地域別の医療情報は国保に限られている。地方自治体では、住民の医療の全体像が把握できない中で事業をせざるを得ない状況になっている。

- ・情報の公表の早期化のためにも提出期限の遵守は当然であるし重要。
- ・一部の対応の遅い保険者が制約となって全体の効率、国民にとっての受益が妨げられる構造になっており改善の具体的な方策が求められる。
- ・各種統計の作成を着実に行った結果、常に100%の達成率という目標でよいのか。タイムリーな公表ができた数等も考える必要があるのでは。費用の削減も公表の早期化もe-govをいかに使うかがひとつのポイント。紙ベースで行う部分が残る限り、コスト削減も早期化も限界がある。
- ・執行率が低い。
- ・データ収集のフローのばらつき(電子と紙)、迅速性に問題あり。
- ・データ改修・更新に計画性があるか疑問。

#### ○評価を選択した理由・根拠

- ・法令上に定められた事業であり、公表期限も定められている案件である現状では対応に限界がある。本事業にとどまらず、データやシステムのあり方を全般的に捉え直し理想的なシステムを構築する必要がある。
- ・よりユーザーのニーズに合った統計情報にすべき。
- ・ソフトの充実をする場合、ハードがセットになるわけではない。既存のハードを活用することや、クラウド化などのシステムの変化に対応できるかどうかにも留意すべき。
- ・全体としては継続的に実施することが求められる業務であり、他の政策形成等の基礎となる有益なものである。
- ・電子化への取り組みは心もとなく、説得だけで動かない場合を想定した対策を今から考えるべき。この事業で電子化が進まないと政府全体の電子化も進まないのではないか。
- ・改善計画の方向性が見られたこと。
- ・統計自体は必要で、効率的かつ迅速に行う仕組みにするために、一部見直しを行うべき。

#### ○改善の手法や事業見直しの方向性

- ・中長期のシステム改善計画を明示し、一定期間の猶予を与えつつ関係各位に義務化を含め、改善を促すべき。
- ・理想の形に合わせ中長期でのシステム運用の変更の指針を早急に共有し、e-gov、保険者、双方の運用改善を期限を定め実施すること。
- ・アウトカム指標は期限内に公表した割合もしくは紙ではなくデータで提出した割合など記載を検討すること。
- ・試行的に実施した地域別・医療機関別の医療費情報の一元化を進めるべき。
- ・電子的な情報提供について、インセンティブ・ペナルティの導入、義務化を含め検討すべき。

- ・ 長期的には診療・投薬情報から直接的に(事業による月次・年次報告を待つのではなく)情報を把握する体制の構築を目指すべき。
- ・ 必然的に遅れる要素があるなら、それを踏まえて具体的な公表期間の目標を設定すべき。
- ・ 改修等経費は、執行額に見合った予算組みをして欲しい。
- ・ 保険者からのデータ収集を中心に、業務フロー(手順と期限)の見直しが必要。電子化のためのシステムの見直しと、そのための情報取扱いルールのも明確化も進めるべき。
- ・ システム改修が場当たりのにならないよう、今回のレビューの過程でシステム改修の中期的な整備計画が策定されたことは評価できる。計画を進める際には、システム開発の専門性と業務フローの専門性の両者がチームアップして進めるべき。
- ・ 統計利用者のニーズも反映させた改修を検討できないか。

#### ○その他

- ・ 問題点は既に認識されており、改善は十分期待できる。